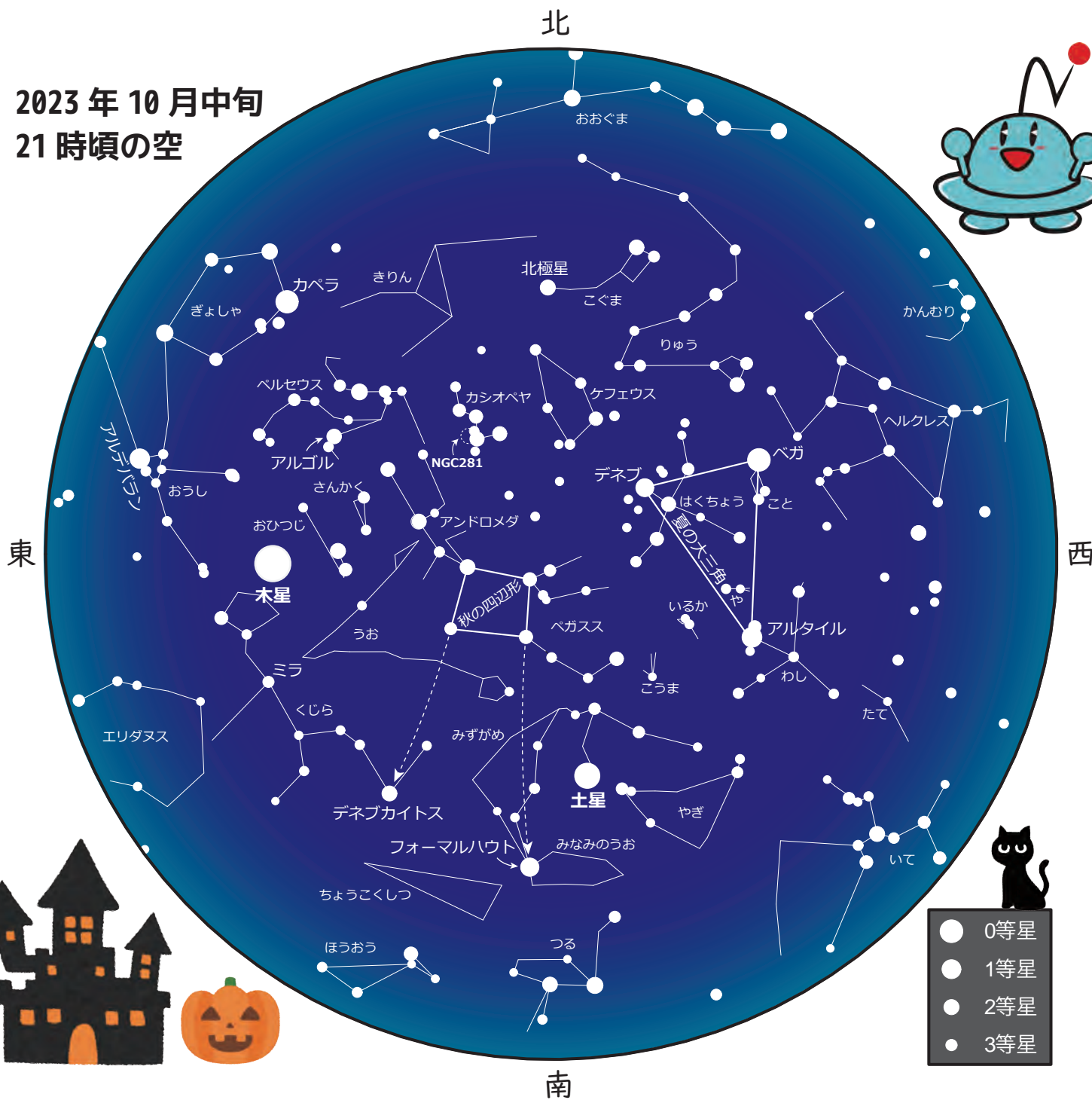


# 10月の星空案内

2023年10月中旬  
21時頃の空



- 0等星
- 1等星
- 2等星
- 3等星

秋も深まる10月頃、夜空を見あげれば天頂付近に**秋の四辺形**と呼ばれる星のならびが観察できます。これは**ペガサス座**という星座の胴体部分にあたり、秋の星々を探す目印にもなります。例えば、四辺形の西側の辺を南のほうへ延ばすと、1等星**フォーマルハウト**（みなみのうお座）、逆に東側の辺を南へ延ばすと2等星**デネブカイトス**（くじら座）が見つかります。一方、北よりの空を眺めると、そこには**カシオペヤ座**を見つけることができるでしょう。これは小学4年生が理科で習う星座の一つで、アルファベットの“M”のような星のならびが特徴です。なお、南の空には**土星**、東の空には**木星**が昇り、惑星たちの輝きが秋の夜空を彩っています。

天体観望会のご予約はネットかお電話にて【毎週土曜日開催 / 19時～, 20時～, 21時～】

阿南市科学センター

電話 0884-42-1600

<http://ananscience.jp/science/>

# 10月の月の満ち欠けと惑星について



下弦  
6日



新月  
15日



上弦  
22日



満月  
29日

水星：初旬頃、夜明け前の東のごく低空に見える【約-1.0等】

金星：夜明け前、東の空で明けの明星として見える【約-4.4等】

火星：太陽の位置に近く、観察は難しい。

木星：前半夜から東の空に昇り、ほぼ一晩中見える【約-2.9等】

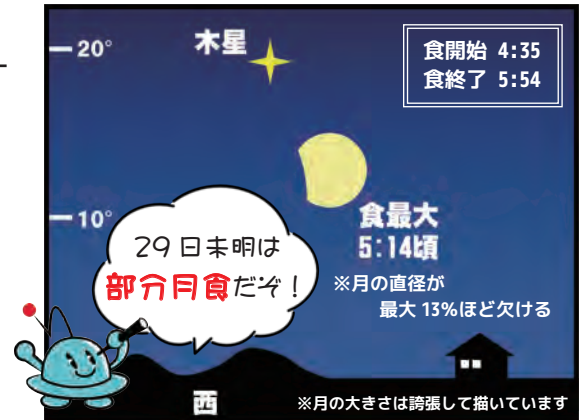
土星：宵の口から南東寄りの空に見え観察しやすい【約0.6等】

※各惑星の等級は中旬頃の明るさ（水星のみ10月初旬の明るさ）。

天体観望会で  
月が見えるおすすめ日時は？



10/21(土)：19時の回で観察可能



## 今月のおすすめ天体

### 【土星と木星を観察してみよう！】

今年の秋は太陽系の2大惑星「土星」と「木星」が観察しやすくなっています（図1）。科学センターの四国最大の望遠鏡で観察すれば、詳細に土星の環や木星の縞模様を見ることができます。

ところで土星の環は、地球から見たとき、年々その傾きが変化することをご存知だったでしょうか。2025年頃には約15年ぶりに環を真横から見るシーズンが訪れる予定です。そのため、今年や来年の環の様子を観察しておく、2年後の真横から見た土星の環の姿に、感動を覚えることでしょう。

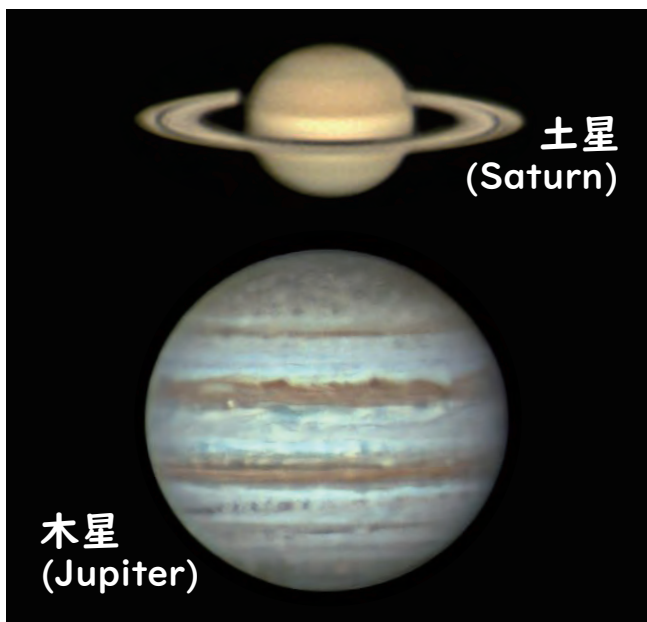


図1：2023年9月下旬頃に撮影した土星と木星。  
（撮影：K. Imamura）

## イチオシ天体写真

### 【NGC281 パックマン星雲】

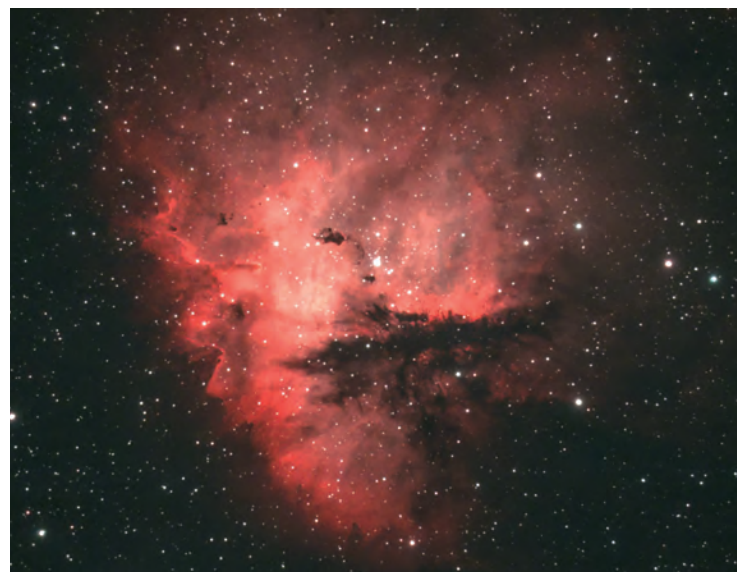


図2: NGC281 パックマン星雲（撮影：K. Imamura）。  
D=25.4cm (F6.3) + x0.8 reducer + L-eXtreme + ASI294MC pro  
※この写真は一般財団法人全国科学博物館振興財団の支援を受け撮影しています。

この宇宙には図2のように赤い光を放つ星雲が数多く知られています（多くは天の川に沿って分布しています）。その正体は宇宙空間を漂う水素ガス等からなり、赤い輝きは星雲付近等にある高温の星の影響を受け、水素ガスが電離して発光しています。

パックマン星雲の愛称で親しまれているNGC281は、カシオペア座に位置する天体です。地球からの距離は約9500光年離れた場所にあると推定されています。この星雲は複数の超新星爆発の影響を受けて形成された「スーパーバブル」の一部ではないかと考えられており、天文学者の間でも注目の研究対象です。